

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和4年8月10日（水）

2 確認箇所

1～4号機タービン建屋東側

3 確認項目

日本海溝津波防潮堤の設置状況

4 確認結果の概要

令和2年4月に内閣府「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会」が日本海溝津波の発生が切迫していると評価したことを踏まえ、東京電力では11.8m規模の日本海溝津波による建屋内滞留水の増加防止及び廃炉重要関連設備の被害軽減のため、テールアルメ工法^{※1}を使用した防潮堤の設置を進めている。

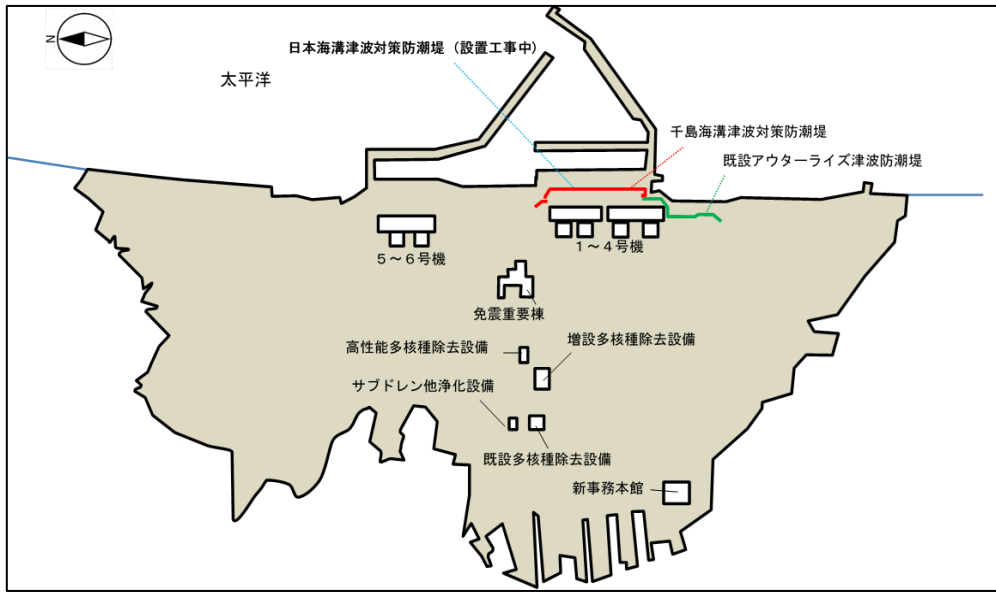
本日は、前回（令和4年5月27日）に続き、工事の進捗状況を確認した。

（図1）（写真1）

- ・防潮堤本体の工事が進捗しており、1号機東側の一部は壁面材であるテールアルメの2段目が設置されていた。（写真2）
- ・防潮堤本体の中に配管類を通すために設置された金属製のU字状の枠は、一部養生されており、養生から数本のコードが伸びていた。（写真3）
- ・本日は、1・2号機側で作業が行われており、現場ではテールアルメの設置とアッシュクリートやコンクリートの打設が行われていた。（写真4）
- ・東京電力では、本防潮堤を令和5年度中に完成させるとしている。

※1 テールアルメ工法：テールアルメ工法は、補強土壁工法の一つであり、ストリップと呼ばれる帯鋼と土との間に大きな摩擦が生じることを前提に、盛土材料中に補強材としてストリップを敷設する事によって、鉛直な法面を形成する。

※2 アッシュクリート：石炭灰（JERA広野火力発電所）とセメントを混合させた人工地盤材料。メガフロート工事でも使用されている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)

日本海溝津波防潮堤本体のテールアルメの設置状況
(北西側から撮影)



(写真1-2)

日本海溝津波防潮堤全体の状況
(南東側から撮影)



(写真2)
 テールアルメの設置が二段目まで進んでいる箇所の状況
 (北西側から撮影)



(写真3-1)
 金属製のU字状の枠の設置状況
 (令和4年5月27日南東側から撮影)



(写真3-2)
 同左
 (令和4年8月10日南東側から撮影)



(写真4-1)
 アッシュクリート打設作業の状況
 (西側から撮影)



(写真4-2)
 コンクリート打設作業の状況
 (南東側から撮影)

- 5 プラント関連パラメータ等確認
 本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。